

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	国立小児病院外科部門にて、小児外科患者への適切な治療、および医療従事者への効果的な教育が、継続的に提供される。
(2) 事業内容	<p>(イ)国立小児病院手術棟の拡張</p> <p>2012年11月の事業開始直後に、建設業者の選定および契約を済ませた。また、並行して、手術棟拡張工事に備えて手術棟の機能を隣の外科病棟に移転する作業を開始し、翌12月には計画通りに完了した。さらに、同月下旬には、手術棟拡張にかかる基礎工事を開始し、2013年1月現在、基礎工事が進行中である。本財団職員は、施工業者、施工管理業者、国立小児病院の担当者と週に一度会合をもち、事業の進捗確認を行っている。詳細は以下のとおりである。</p> <p>なお、本報告書においては、2013年1月20日までに行われた事業内容につき報告するものとする。</p> <p>①手術棟機能の一時移転</p> <p>手術棟の工事期間中も、手術を実施できる場所を確保するため、工事開始に先立ち、手術棟の機能を、隣接する外科入院病棟の一階に移動させた。</p> <p>事業開始後の11月初旬より、臨時の手術エリアとして使用される、外科病棟一階の6部屋から、順次器具や備品を運び出し、その後、手術棟の機能を受け入れられるよう、各部屋を清掃、改装した。このうち2室はそれぞれが部屋の中央で仕切られ4部屋となり、それぞれ臨時の手術室2室、術後回復室、スタッフ更衣室として使用できるようになり、その他4室は、器具洗浄・準備室、麻酔スタッフらの駐在室に改装された。また、外部とつながるドアや窓の封鎖、手術スタッフが手洗いのために使用するシンクの設置、一部の壁の塗り直しなど、この臨時手術エリアが、衛生上および機能上、満足に役割を果たせるよう、改修を行った。こうした改修工事は12月中旬に完了し、その後、手術棟の機材、器具、備品がすべて運びこまれ、1月より、この臨時手術室において手術が行われている。</p> <p>②手術棟の拡張のための基礎工事</p> <p>12月半ばより、手術棟の拡張部分の基礎工事が開始された。本報告期間中に、柱の土台を地中に埋め込み、地中梁をおくコンクリートの土台を設置するところまで完了した。</p> <p>また、並行して、既存の手術棟の東側(拡張する部分)の屋根、外付けの階段、柱などの取り壊しも行った。この取り壊し作業については、本報告期間中に、窓の陽差しなど小さな部分を除いて、ほぼ終了した。</p>

(3) 達成された効果	<p>国立小児病院手術棟拡張支援事業の成果としては、国立小児病院外科病棟および手術棟において、小児外科患者に対する適切な治療が継続的に提供されること、および研修が効率的にかつ充実した内容に実施されることが期待されている。</p> <p>上述のとおり、本報告期間においては、手術棟機能の移転と、手術棟拡張部分の基礎工事が行われた段階であり、新手術室の設置や手術器具の配備は行われていない。そのため、現時点では、本事業成果の指標である「脊椎外科手術の開始」や「新たな手術器具の使用に関する医師たちの知識向上」には至っていない。</p>
(4) 今後の見通し	<p>事業活動は、本事業申請時に提出したプロジェクトタイムテーブルに記載された通りに実施される見込みである。ただし、実際の事業開始時期が、申請時に想定した時期より2ヶ月遅れとなったため、月数は事業開始時期にあわせて、タイムテーブルに記載のものから2月加えたものである。</p>